

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年7月31日※1  
(前回公表年月日:平成29年7月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
福岡医療専門学校	平成23年4月1日	藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1 (電話) 092-833-6120																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人福岡医療学院	平成11年4月1日	理事長 藤瀬 武	〒814-0005 福岡県福岡市早良区祖原3-1 (電話) 092-833-6120																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	診療放射線科	平成25年文部科学省 告示第2号	-																						
学科の目的	基礎医学および診療放射線技師に関する最新かつ実践的な専門知識と技術、さらには自らの職業に対する誇りとチーム医療を担う豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成する。																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
3年	昼間	2745時間	1710時間	240時間	540時間	225時間	30時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
250人	243人	0人	12人	30人	42人																					
学期制度	■前期: 4月 1日～ 9月30日 ■後期: 10月 1日～ 3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目の成績は100点満点とし、期試験及びその他の各種資料(定期試験以外の試験、学習態度、出席状況等)に基づいて決定する。原則として60点以上を合格とする。実技実習、臨床実習、臨地実習及び体育実技の成績についても同様とする。																						
長期休み	■学年始: 4月 1日～ 4月 2日 ■夏季: 7月28日～ 8月26日 ■冬季: 12月19日～ 1月 6日 ■学年末: 3月16日～ 3月31日		卒業・進級条件	■学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないものとする。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 複数担任制を導入し補充指導等をおとして、きめ細やかなサポートを継続している。 日々の出席状況をクラス担任が把握し、欠席が続く者には保護者へ連絡し、長期欠席にならないよう取り組んでいる。 附属クリニックにおける専門医の相談の場を設けている。		課外活動	■課外活動の種類 部活動 女子陸上競技部・バドミントン部・サッカー部・ソフトテニス部・バスケットボール部・バレーボール部・野球部・ソフトボール部・剣道部・柔道部・総合運動部・卓球部・少林寺拳法部・軽音楽吹奏楽部・東洋医学研究部・ヘルス&ビューティ部等																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 朝倉健生病院、あだち脳神経外科クリニック、岡部病院、九州労災病院門司メディカルセンター、久米整形外科医院、黒崎整形外科病院、堺整形外科医院福岡スポーツクリニック、桜十字福岡病院、白川病院、聖マリア病院、福田病院、牟田病院、今村病院、おもしろまちメディカルセンター、鹿児島生協病院、西諫早病院、虹ヶ丘病院、西日本病院、ハートライフ病院、本多整形外科、三原台病院、朝霞中央総合病院、熱海所記念病院、呉医療センター、戸田中央総合病院、新座志木中央総合病院、八王子山王病院、洛西ニュータウン病院、千葉労災病院、洛和会音羽病院等		主な学修成果(資格・検定等) ※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年7月31日時点の情報)																						
			<table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>診療放射線技師国家資格</td><td>②</td><td>51人</td><td>48人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	診療放射線技師国家資格	②	51人	48人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
診療放射線技師国家資格	②	51人	48人																							
			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
			■自由記述欄																							
■卒業生数 : 51 人 ■就職希望者数 : 47 人 ■就職者数 : 47 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 92.2 % ■その他進学者数 : 4 人 (平成29年度卒業生に関する平成30年7月31日時点の情報)																										

中途退学の現状	<p>■中途退学者 21 名 ■中退率 10.0 %</p> <p>平成29年4月 1日時点において、在学者210名（平成29年4月 1日入学者を含む） 平成30年3月31日時点において、在学者189名（平成30年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的事由 成績不良</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 奨学金や教育ローンの拡充をはかり、経済的困難な学生のサポートに努めている。 入学予定者に対するサポートデスクを立ち上げ、入学までの学力向上を図っている。 複数担任制を導入し補充指導等とおして、きめ細やかなサポートを継続している。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・複数学科を同時に入学する場合は、一方の学科の入学金を免除。 ・在校生が入学する場合は、入学金の一部を免除。</p> <p>■専門実践教育訓練給付：非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：有</p> <p>評価団体名：特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 受審年月：平成29年3月 評価結果：URL: <a href="http://www.jusei.ac.jp/">http://www.jusei.ac.jp/</a></p>
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.jusei.ac.jp/">http://www.jusei.ac.jp/</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員には、以下の両方または何れかの条件を満たす者を選定している。

1. 業界団体に所属し、要職に就いている有識者
  2. 現場を指揮し、医療の最先端で活躍している院長や所属の長
- このような業界全体の動向、実務に関する知識や技術に関する知見を有する委員からの要請等を教育課程編成委員会にて協議していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本学の教育課程は、教育課程編成委員会の意見を踏まえて、教務委員会が編成する(学則第14条及び学校会議規程第4条)。

教育課程編成委員会の位置づけ及び審議内容が採用される過程は、以下の通りである。

- ① 第1回教育課程編成委員会では、前年度の教育課程を実施した結果や当年度の教育課程の進捗状況等が報告される。委員による審議が行われ、委員から意見を聴取する。審議内容及び意見は教務委員会に直ちに報告され、当年度の教育課程や指導方法等の改善に活用される。
- ② 第2回教育課程編成委員会では、第1回委員会で聴取された意見に対する改善策の実施状況について審議が行われる。その審議結果を踏まえて、次年度の教育課程の編成に対する意見を委員から聴取する。
- ③ 第2回委員会で聴取した意見は、副校長、学科長、専任教員及び非常勤講師が参加する次年度教育内容会議において審議される。そこで審議した結果を踏まえて、教務委員会が次年度の教育課程を編成する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

教育課程編成委員会

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
藤瀬 武	福岡医療専門学校 校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
長門 俊一	福岡医療専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
市原 隆洋	福岡医療専門学校 診療放射線科 学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
高橋 正徳	横浜市南部地区放射線技師会 理事 医療法人横浜柏堤会 戸塚共立第1病院 放射線科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①
義本 正二	医療法人社団誠和会 牟田病院 事務長 同 画像診断科 元技師長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は年2回。開催時期は毎年6月と11月。

(開催日時)

第1回 平成30年 6月 9日(土)15:00～17:00

第2回 平成30年11月24日(土)15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

改善事項

(1)FPDを実技実習に用いる。(平成30年度エックス線撮影技術学実習に取り入れる。)

(2)撮影の流れを細分化し、それぞれを項目だてた実習内容とする。(平成30年度画像検査学実習に取り入れる。)

検討課題

(1)注腸検査専用教育備品が存在しないことによる代替器具を検討する。

(2)職業観の養成に関して学生に興味や学習意欲を持たせる方法を検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

講義・実習で得たX線撮影技術学、診療画像検査技術学、放射線治療技術学、核医学検査技術学についての知識と技術をもとに、診療放射線技師として必要な臨床放射線技術を習得するために、各部門に精通した臨床実習指導者(満5年以上の臨床経験がある)を選定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

学校教員と派遣された講師が実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学修成果の達成度評価指標等について定める。実習期間中は、学校教員と派遣された講師が学生の学修状況を互いに直接確認し授業運営を行う。実習終了時には、学校教員と派遣された講師が協議の上、成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習(2年次)	病院で行われるX線単純撮影、透視、CT、各種造影検査、MRI、超音波画像検査に関する診療を体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	戸田中央総合病院、千葉労災病院、君津中央病院、村上華林堂病院、洛和会音羽病院 総数24施設
臨床実習(3年次)	病院で行われる核医学検査、放射線治療等に関する診療を体験する中で実践的な幅広い知識・技術を習得する。また、各部門の運営の実際や被検者及び患者に対する適切な対応を学ぶ。	戸田中央総合病院、上尾中央総合病院、洛和会音羽病院、千葉労災病院、君津中央病院 総数12施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校は、教員が学生に対し、社会のニーズに応えることのできる即戦力及び臨床能力の高い医療技術者を育てるために、より職業実践的な教育をすることを目的に掲げている。

この目的を達成するためには、教員の資質向上は必須の条件となる。そこで、次に掲げた事項を進めることにより、教員の資質向上の支援を行っている。

1. 研修規程を定めて、計画的かつ継続的な研修受講を支援する。
2. 本校附属臨床施設(福岡医療クリニック)での臨床経験を積むことにより、実際の現場での知識・技術の修得をすすめる。
3. 外部機関(学会・研究会・研修等)に対して会場提供を積極的に行い、様々な分野での知識修得を奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	企業等との連携概要	期間	場所
教員	久留米大学解剖実習 献体解剖実習 (久留米大学解剖実習)	2017.6.21	久留米大学
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2017.7.31	広島市立広島市民病院
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2017.8.8	君津中央病院
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2017.9.12	岩国医療センター
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2017.9.19	聖峰会マリン病院
教員	診療放射線技師養成機関懇談会 日本診療放射線技師会と養成施設における会議 (日本診療放射線技師会)	2017.12.16	東京医科大学病院
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2018.3.2	福山医療センター
教員	臨床現場視察 臨床施設視察および診療放射線技師との意見交換 (福岡医療専門学校)	2018.3.29	戸田中央総合病院

その他40件

② 指導力の修得・向上のための研修等

対象	企業等との連携概要	期間	場所
教員	第73回日本放射線技術学会総会学術大会 学会発表「脳血管治療の予測に関係する要因の基礎研究」 (日本放射線技術学会)	2017.4.13 ~4.16	パシフィコ横浜

教員	第23回校友会 「病気は日常の動作に発見できる－M-Testからみた診断と治療－」 (福岡医療専門学校校友会)	2017.6.18	本校
教員	全国診療放射線技師教育施設協議会 診療放射線技師養成施設における会議 (京都医療科学大学)	2017.6.30	ホテルグランヴィア京都
若手教員	新任教員研修会 専修学校教員にとって必要な基礎的知識の習得 (一般財団法人職業教育・キャリア教育財団)	2017.8.1 ～8.3	博多バスターミナルビル
教員	全国私立診療放射線技師養成施設長会 診療放射線技師養成施設における会議 (純真学園大学)	2017.10.27	福岡ガーデンパレス
若手教員	第24回校友会 「人工関節の進歩とチーム医療」 (福岡医療専門学校校友会)	2017.11.20	本校

その他10件

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	企業等との連携概要	期間	場所
教員	久留米大学解剖実習 献体解剖実習 (久留米大学解剖実習)	2018.6.20	久留米大学
教員	第74回日本放射線技術学会総会学術大会 放射線技術研究 (日本放射線技術学会)	2018.4.13	パシフィコ横浜
教員	第4回福岡県診療放射線技師会 学術大会 原点回帰、放射線診療の質の向上を目指して (福岡県診療放射線技師会)	2018.6.17	九大病院 臨床小講堂
教員	第72回九州循環器撮影研究会 骨盤～下肢の造影について (九州循環器撮影研究会)	2018.7.7	九大病院 臨床小講堂
教員	第72回九州循環器撮影技術研究会 インターベンション領域における情報更新 (九州循環器撮影技術研究会)	2018.7.7	九州大学医学部附属病院
教員	第22回CTサミット 最新CT技術の情報更新 (CTサミット)	2018.7.14	北九州国際会議場
教員	第489回福岡消化器病研究会 消化管症例研究 (福岡市医師会)	2018.7.19	スカラエスパシオ(渡辺通り)
教員	第1回医療情報コミュニティ 画像情報について最新の医学的知識を高め、指導力を向上させる。 (医療情報コミュニティ)	2018.8.18	アステム福岡(吉塚)
教員	第34回日本診療放射線技師学術大会 国民と共にチーム医療を推進する (日本放射線技師会)	2018.9.21	下関市生涯学習プラザ

その他25件

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

対象	企業等との連携概要	期間	場所
新任教員	第23回校友会 「病気は日常の動作に発見できる－M-Testからみた診断と治療－」 (福岡医療専門学校校友会)	2018.6.18	本校
教員	第62回全国診療放射線技師教育施設協議会 養成施設間での技師教育や運営に関する情報交換を行い、実務の質および指導力を向上させる。 (京都医療科学大学)	2018.6.18	ホテルグランヴィア京都
教員	第43回全国私立診療放射線技師養成施設長会 診療放射線技師養成施設における会議 (純真学園大学)	2018.10.27	福岡ガーデンパレス

新任教員	平成30年度新任教員研修 個々の教員の教育能力を知識と技法の両面で向上させる。 各科教員の相互理解を深め、連携を強化する。全教員の自己学習の意欲を刺激し、自ら学び研究する姿勢を育む。 (福岡県専修学校各種学校協会)	2018.8.1 ～8.3	博多バスターミナル
教員	FD研修会 全教員参加による教員の資質向上と学術研究、指導法の発表による研修会 (福岡医療専門学校)	2018.9.15 2019.1.19	校内

その他5件

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校は自己点検・自己評価委員会を設置して、①教職員全員による自己点検・評価、②学校関係者(企業等の役員又は職員、地域住民、保護者、校友会会長等)による評価を実施し、その結果についてこの報告書にまとめ、ホームページに公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念,目的,育成人材像 ・学校の特徴 ・学校の将来構想
(2)学校運営	・運営方針・事業計画・運営組織,意思決定効率化・人事,賃金制度 ・意思決定システム・情報システム化等による業務効率化
(3)教育活動	・教育目標,育成人材像,到達レベル・カリキュラム・授業評価・教員確保 ・単位認定・資格取得
(4)学修成果	・就職率向上・資格取得率向上・退学率低減・社会的活躍,評価の把握
(5)学生支援	・就職,進学・学生相談・経済的支援・健康管理・課外活動・生活環境 ・保護者連携・卒業生支援
(6)教育環境	・施設,設備・学外実習,インターンシップ,海外研修等の実施・防災体制
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動,教育成果・入学選考・学納金
(8)財務	・中長期的財務基盤・予算,収支計画
(9)法令等の遵守	・法令,設置基準等・個人情報保護・自己点検,自己評価の実施等
(10)社会貢献・地域貢献	・社会貢献の実施・学生ボランティア活動支援等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業から参画した委員から、課題解決能力の向上を求める意見があった。この意見を採用し、今年度から2年生のエックス線撮影技術学実習にてディスカッションの時間を設け課題解決型授業やキャリア教育を実施し、課題解決能力の向上に努めた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
北原 孝子	朝日ホーム有限会社 顧問	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	地域住民
下迫 勇夫	福岡医療専門学校 非常勤講師	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	有識者
上野 啓介	うへの整骨院 院長 6期卒業生	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
松山 基光	松山整骨院 院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
馬場 鮎美	福岡東鍼灸整骨院 副院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
木下 健一郎	有限会社ひかり(通所介護ライセンス) 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
山中 知愛	医療法人西福岡病院 放射線科 科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員
池田 悦子	医療法人社団正樹会 佐田整形外科病院 副院長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・毎年度7月末)

URL:<http://www.iusei.ac.jp/outline/hyoka.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

九州各県で行われる学校説明会に参加することを通じて日常的に情報提供を行っている。  
さらに、広く社会一般に向けてホームページに上述の情報を掲載し、誰もが容易にアクセスできるよう努めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・教育理念 ・概要と沿革
(2) 各学科等の教育	・柔道整復科紹介 ・カリキュラム, 取得単位数, 目指す資格 ・柔道整復師の概要, 国家試験合格実績
(3) 教職員	・主たる教員紹介およびセミナー紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・セミナー ・臨床実習 ・就職キャリア支援 ・主な就職先
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学生へのフォローアップ ・施設, 設備
(6) 学生の生活支援	・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	・学納金納入 ・奨学金 ・入学前サポート
(8) 学校の財務	・事業報告書 ・計算書類
(9) 学校評価	・第三者評価 ・一般社団法人リハビリテーション評価機構 認定証 ・学校関係者評価 ・自己点検, 自己評価
(10) 国際連携の状況	・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)

URL:<http://www.iusei.ac.jp/outline/hvoka.html>

### 授業科目等の概要

(医療専門課程 診療放射線科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			数学Ⅰ	初高校数学の復習から、基礎的な数学の知識を演習し習得する。	1前	30	1	○			○			○	
○			数学Ⅱ	微分・積分の考え方を理解し、高度な微分積分を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
○			統計学	統計学とは様々な情報を集約・集計することで、一見バラバラに見える情報から傾向を見出すなどの学問である。医療現場においても、病気になりやすい人や年齢等はきちんとした統計学を基に数字として現されたものである。本講義では統計学の基礎なるものについて講義を行っていく。	2後	30	1	○			○			○	
○			物理学	物理学は様々な現象を客観的な視点を持って理解する学問である。『物体が上から落ちる』等、簡単な現象についても、様々な法則が関わっており初めは理解するのが困難かもしれない。本講義では物理学として必要な視点とそれに関わる数式の扱い方などについて講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	
○			化学	化学物質の組成・性質・物質間の変化について学び、原子核・原子・分子の区別についての詳細を紹介する。	1前	30	1	○			○			○	
○			生物学	生物学は、生物に関わる現象を研究する科学である。対象となる現象や生物の種類も多く、ヒトを対象とした研究はその一部でしかない。本講義ではヒトを中心に、生物の基本単位である細胞から個体に至る生命現象を扱う。	1前	30	1	○			○			○	
○			基礎実験	力学、光学、電気物理学分野についての実験・実習を行う。	1前	30	1			○	○			○	
○			倫理学	倫理学は様々なテーマに対し、一元的な自分の考えだけでなく、より客観的視点を持って問題を考えていく学問である。客観的な視点を持つためには、別角度からの視点、考え方や発想力などが必要となる。本講義では倫理学の基礎となる考え方を講義していく。	1前	30	1	○			○			○	
○			心理学	本講義では人間の心理と行動を理解するために必要と思われる基礎的領域と応用的領域を中心に講義を行う。内容は「1. 脳の働き、環境認知、欲求、学習」、「2. 性格、知能、発達」、「3. 人間理解の方法、心理療法、社会行動」について講義を行う。	1後	30	1	○			○			○	
○			情報科学	医療の現場においては質の高い医療サービスを提供するために、患者情報や検査情報など様々な情報がコンピュータシステムによって管理運用されている。これらのシステムを支えるコンピュータについてその基本的な構成と機能を理解し、適切な利用が行えるように学習していく。	1前	30	1	○	△		○			○	
○			表現法	人間関係を円滑にする対話についての基礎的な知識を深め活用できるようにする。また、目的に応じた表現様式について作成できるようにする。	1後	30	1	○			○			○	
○			外国語Ⅰ	医療現場で使える簡単な英会話の授業で、一般的な医療用語やフレーズを学んでいく。大きく分けると窓口での受付、電話での応対、主訴を訊く、検査の手順などを説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れていく。	1前	30	1	○			○			○	



分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			外国語Ⅱ	医療現場で使える簡単な英会話の授業で、一般的な医療用語やフレーズを学んでいく。大きく分けると窓口での受付、電話での応対、主訴を訊く、検査の手順などを説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れていく。	1後	30	1	○			○			○	
○			保健体育	医療人は健康に障害が生じた人だけでなく、健康保持増進にも重要な役割がある。相手の反応を確認する体験を通じて、仲間づくりを行い、身体的トレーニング法を学び、自己の健康意識を高める能力を習得する。	1前	30	1	△		○	○			○	
○			医学概論	生活に深くかかわる保健・医療システムや医療技術の現状と課題を理解する能力を修得する。	1前	30	1	○			○				○
○			解剖学Ⅰ	解剖学では人体を理解するための基礎となる正常な構造について学習する。人体構造を理解するには、構造の基本単位である細胞を理解し、それら集合体がどのような形態・機能を有するかを学習する必要がある。本講義では解剖用語をはじめ細胞・組織。骨、筋、脈管や一部臓器について講義を行う。	1前	30	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰで学んだ内容に引き続き、放射線技師に必要な呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器、神経、感覚器の重要事項を重点的に学習する。人体発生の基本事項を学習し、人体の成り立ちや成長発育の概要を習得する。	1後	30	1	○			○			○	
○			解剖学実習	解剖学、生理学は画像診断、核医学、放射線治療の礎となるものである。解剖の基礎を踏まえ、部位の名前及び立体的にとらえることを学ぶ。人体の構造に興味を持ち、確実に覚えていく。	1後	30	1	△		○	○			○	
○			生理学	人体の機能の仕組みについて学ぶ。人体の約60兆個という膨大な数の細胞には、それぞれ個別の役割を担い、必要なタイミングで必要な分の仕事を行うことで、人（個体）の生命を維持している。ここでは、正常な細胞（群）の役割とその連携について詳しく学習していく。	1前	30	1	○			○			○	
○			病理学Ⅰ	世界には風邪のような感染症からガンといった悪性腫瘍まで多種多様な病気が存在する。そのような病気の原因と成り立ちを明らかにする学問が病理学である。病気の原因を解明することで、病気を治療する方法が発見でき、さらには病気の発生を予防することも可能となる。この科目では医療従事者にとって必要な病理学の一般について詳しく学習する。	1後	30	1	○			○			○	
○			病理学Ⅱ	世界には風邪のような感染症からガンといった悪性腫瘍まで多種多様な病気が存在する。そのような病気の原因と成り立ちを明らかにする学問が病理学である。病気の原因を解明することで、病気を治療する方法が発見でき、さらには病気の発生を予防することも可能となる。この科目では医療従事者にとって必要な病理学の一般について詳しく学習する。	2前	30	1	○			○			○	
○			臨床薬理学	人体の生理機能を復習しながら体内での薬物動態を理解する。さらに、将来診療放射線技師として関与する患者が服用している可能性の高い薬物に対する理解を深める。	2後	30	1	○			○			○	
○			看護学概論	医療の現場において同じチームの一員として協力し合うためには、医療職者として共通の対象理解が必要である。様々な看護分野における技術や対象とのコミュニケーション方法を学び、対象およびその家族へのより良い医療の提供を目指す。	2後	30	1	○		△	○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 当年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			臨床医学Ⅰ	日常臨床でよく遭遇する疾患につき、基礎知識に始まり、診療放射線技師がそれらの疾患とどのように持つのか、また画像診断や放射線治療とそれぞれの疾患との関わりを学ぶ。	2 前	30	1	○			○			○		
○			臨床医学Ⅱ	日常臨床でよく遭遇する疾患につき、基礎知識に始まり、診療放射線技師がそれらの疾患とどのように持つのか、また画像診断や放射線治療とそれぞれの疾患との関わりを学ぶ。	2 前	30	1	○			○			○		
○			救急医学	医療従事者として、生命の大切さを理解し、救急疾患の特性を理解し、救急手当や応急手当を理解・修得出来るように講義を行う。救急における技師の役割、撮影方法を理解し、修得出来るようにする。	2 後	30	1	○			○				○	
○			基礎医学大要演習	基礎医学大要演習では人体の構造、機能、病態を中心に学習していく。国家試験においても配点が大きい科目であり非常に重要な科目となる。この科目では人体の機能、器官の役割について詳しく講義を行っていく。	3 前	20	1		○		○			○		
○			放射線技術学総論	放射線は「両刃のやいば」言われている。放射線は非常に有用であるが、潜在する危険もある。この科目は“放射線入門”ということに目的を置き、放射線を利用して業務を行う診療放射線技師として、放射線の基本知識を得ることを目的とし講義を行う。	1 前	30	1	○			○				○	
○			応用数学	診療放射線技師にとって、フーリエ級数・フーリエ変換の知識は放射線の振舞や、X線CTやMRIなどの機器の基本原理を理解するうえで必要な基礎知識である。本講義では積分の復習を兼ねて関数の性質について学んだあと、画像解析などを行う際に用いられるフーリエ変換・フーリエ級数について講義する。	2 前	30	1	○			○				○	
○			医用工学Ⅰ	放射線機器を構成する電気回路や電子回路を理解するための基礎知識として電界や磁界の性質、直流電流を用いた回路計算などについて講義を行う。	1 前	30	1	○			○			○		
○			医用工学Ⅱ	放射線機器を構成する回路を理解するために、信号処理を行う各種の電子回路や半導体素子の動作原理について講義を行う。	1 後	30	1	○			○			○		
○			医用工学実験	放射線機器を構成する基本回路の役割とその動作特性を実験により学習する。	1 後	30	1			○	○			○		
○			医用工学演習	電気・電子回路の動作特性を復習し、計算問題などの演習問題について、講義を行う。	3 後	20	1		○		○			○		
○			放射線物理学Ⅰ	放射線物理学は放射線による起こる現象を理解する学問である。放射線について正しく理解するための各種の放射線の特性や原理についての詳細を講義する。	1 後	30	1	○			○				○	
○			放射線物理学Ⅱ	放射線物理学Ⅰで学習した内容を基礎に、放射線が人体をはじめとする物質とどのような相互作用を起こすか、また放射線の応用について講義する。	2 前	30	1	○			○				○	
○			放射線物理学・計測学演習	放射線物理学、放射線計測学に関して講義で学んだことを基に総合的に演習し、知識のまとめと両科目の密な関連性について学習していきます。国家試験で過去に出題された問題を中心に演習する。	3 前	20	1		○		○			○	○	
○			放射化学Ⅰ	放射化学とは放射線を放出する原子（放射性同位体：RI）について学ぶ学問である。RIは原子力発電所のみならず、医療現場でも用いられる有用な物質の一つであるが、取扱いを誤ると甚大な被害がでる危険な面も有している。本講義ではRIを正しく理解し、その特性等について講義を行う。	1 後	15	0.5	○			○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 当年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			放射化学Ⅰ	2年次は放射性同位体元素が医療に応用されるまでに必要な手順について、分離・標識・分析といった各段階について講義を行う。	2前	15	0.5	○			○		○		
○			放射化学Ⅱ	放射化学Ⅱでは放射性同位体元素が医療に応用されるまでに必要な操作・特徴を総合的に講義する。また、国家試験対策についてもここで講義する。	3前	30	1	○			○		○		
○			放射化学演習	放射化学演習ではこれまで学習した内容の総復習及び、個々の詳細について講義を行う。また、国家試験対策も行う。	3後	20	1		○		○		○		
○			放射線生物学Ⅰ	診療放射線技師は電離放射線を取り扱い、自らの手で人体に放射線を照射する立場に立つ。放射線が人体にどのように影響するかを理解しておく必要がある。本講では放射線生物学の基本的な概念を学ぶ。	1後	15	0.5	○			○		○		
○			放射線生物学Ⅰ	放射線の被ばく管理や放射線治療技術の理解のためには、基礎的な放射線生物学の内容が必要である。放射線生物作用の過程や細胞への影響、組織・個体レベルでの放射線の影響、発がんや遺伝的な影響等の放射線生物学の基本的な概念を学び、放射線の医学的利用について考えることを目標とする。	2前	15	0.5	○			○		○		
○			放射線生物学Ⅱ	放射線が医療に応用されるまでに必要な理論を総合的に講義する。また、国家試験対策についてもここで講義する。	3前	30	1	○			○		○		
○			放射線生物学演習	放射線生物学演習ではこれまで学習した内容の総復習及び、個々の詳細について講義を行う。また、国家試験対策についてここで触れる。	3後	20	1		○		○		○		
○			放射線計測学Ⅰ	放射線計測学はその名のごとく放射線の量を測るための原理や方法について学ぶ学問です。この科目では放射線計測の基礎として、放射線量の単位と定義、種々の検出原理とそれに関わる放射線物理学、各種測定器の特性について学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			放射線計測学Ⅱ	放射線計測学Ⅰの知識を基に、照射線量、吸収線量、エネルギー、放射能など線量測定の基本となる各諸量の定義および測定原理について学び、臨床で使用される実践的な線量測定方法まで学習する。	2後	30	1	○			○			○	
○			放射線計測学実験	測定データが得られる過程、データ処理法、実験条件について十分な理解が得られ、正確なデータを得るように実験を行う。GM計数管、NaIシンチレーション検出器を用いてその特性を理解し、スペクトルの仕組みなどを理解すると共に半価層測定において実効エネルギーの求め方を習得する。また、CTでの被ばく線量測定、透視装置での皮膚被ばく線量測定も行う。	3前	30	1			○	○		○		
○			画像解剖学	画像解剖は、疾患に対しての読影を学ぶ学問である。頭部・胸部・腹部を初め、心臓での疾患を覚え、画像でどのようにあらわれるのかについて学習する。	2前	15	0.5	○			○		○		
○			画像解剖学	画像解剖は、疾患に対しての読影を学ぶ学問です。消化管・泌尿器・生殖器および整形外科分野での疾患を覚え、画像でどのようにあらわれるのかについて学習する。	3前	15	0.5	○			○		○		
○			放射線画像機器学Ⅰ	放射線画像機器学とはX線を用いる検査機器、器具、CT撮影装置、磁気共鳴画像診断装置、超音波画像診断装置、眼底写真撮影装置と幅広い範囲を網羅している。ここでは、X線を用いる検査機器からCT撮影装置までの原理とその実践について学ぶ。放射線画像機器学ⅠでX線発生装置、X線機械装置について学ぶ。	1後	30	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			放射線画像機器学Ⅱ	放射線画像機器学ⅡではX線映像装置、診断用X線画像処理装置、関連機器、診断用X線装置システム、診断用X線装置の管理、医用X線CT装置について学ぶ。	2前	30	1	○			○		○	○	
○			放射線機器学実験	機器の模型回路および診断用X線装置の特性を実際に測定し、実際の医用機器における特性の測定方法を学ぶ。	1後	30	1			○	○		○		
○			診療画像機器学演習	画像診断機器にはX線装置として、X線源装置、X線高電圧装置、X線機械装置、X線映像装置、X線画像処理装置、その他の関連機器があり、これらを活用した一般・透視・循環器（血管撮影）・乳房・歯科用等のX線検査システムやX線CT装置、磁気共鳴を利用した磁気共鳴画像診断装置や超音波を利用した超音波画像診断装置等がある。これらのなかで、磁気共鳴画像診断装置、超音波画像診断装置を省いたものを教授する。撮影・撮像原理、システムの構成と特徴、動作原理、安全管理等を教授する。	3後	20	1		○		○		○		
○			エックス線撮影技術学Ⅰ	診療画像技術のX線一般撮影の分野を担当する。本教科は診療放射線技術の総合科目とも言えるが、これらの知識を1年生の段階でも無理なく理解出来るように、各分野の基本的事項から講義を行う。	1前	30	1	○			○		○		
○			エックス線撮影技術学Ⅱ	これからの診療放射線技師に必要な造影剤の性状、注意すべき副作用および対処方法、造影検査の目的、造影手技、造影剤を使用した各種の検査法、画像評価法、業務知識、医療人としての責任など、一般撮影、造影検査およびこれらに関連する事項について講義する。	1後	30	1	○			○		○		
○			CT検査技術学Ⅰ	CT検査は、技師の知識・技術としてなくてはならないものである。CT検査の理論から頭部を始め、胸部・腹部・四肢等の撮影方法までを学習する。Ⅰでは基礎的理論を主とする。	2通	30	1	○			○		○		
○			CT検査技術学Ⅱ	CT検査は、技師の知識・技術としてなくてはならないものである。CT検査の理論から頭部を始め、胸部・腹部・四肢等の撮影方法までを学習する。Ⅱでは臨床応用を主とする。	3前	30	1	○			○		○		
○			エックス線撮影技術学実習	撮影技術学実習は、実際の撮影方法や体位、X線入射方法を学ぶものです。技師の仕事として基礎となる分野であり、必要不可欠なものです。就職して即実践できるように、実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		
○			エックス線撮影技術学演習	X線撮影技術は、診療放射線技師にとって不可欠なものである。技術の知識、体位、X線入射点など全てのことを復習する。	3後	20	1		○		○		○		
○			MRI画像検査技術学Ⅰ	MRIは人体に豊富に含まれる水素原子が磁場と電波によって磁気共鳴現象を起こし、その際に発生した信号を検出することで画像を形成する装置です。前期ではMRIの基本概念について詳しく学習し、後期では基本概念を基に高速撮像法などのより発展的な撮像原理やMRI装置のシステム構成について、また、MRI用の造影剤や臨床応用について学習する。	2通	30	1	○			○		○		
○			MRI画像検査技術学Ⅱ	MRI画像検査技術学Ⅱでは、MRI画像検査技術学Ⅰで学んだ内容をさらに深く追求する。原理や装置および検査法については再度復習し、臨床で応用されている技術について学習する。	3前	30	1	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			超音波検査技術学	超音波診断装置は超音波の反射を利用して断層像を得ることができる画像診断装置です。他の装置と違い様々な断層像をリアルタイムで描出し、血流の様子や臓器の動き、さらに組織の硬さも知ることができます。この科目では超音波診断装置の基本原則と診断および画像解剖を含めた臨床的技術について詳しく学習していく。	2通	30	1	○			○		○		
○			診療画像検査学実習	診療画像検査学実習では、MRI装置、超音波装置、一般エックス線撮影を中心に、各種装置の基本的操作を実習し、画像成立までに存在する種々の問題や検査を行う際の留意点および画像所見など実際に撮影し画像を見なければ分からない点を、実習を通して習得する。	2後	30	1			○	○		○		
○			診療画像検査学演習	これまでに履修したMRI、超音波、眼底写真検査についての基礎的知識のまとめと応用力を養うことを目的に演習を行ない、解説及び補足を講義にて学習する。	3前	20	1		○		○		○		
○			診療放射線技術学研究	診療放射線技師の業務は画像検査、放射線治療、院内ネットワークの運用と多岐にわたり、それぞれの分野で診療放射線技師による研究が成されています。さらに研究内容は機器の原理や性能、疾患に対する画像所見など様々である。本授業では今まで履修した科目の中で、将来研究するために特に必要な基礎的分野を中心にさらに詳しく学び、研究に対する探究心と知識を身に付ける。	3通	45	1	△		○	○		○		
○			核医学検査技術学Ⅰ	核医学検査技術学は放射性同位元素で標識した放射性医薬品を用いて臓器の機能および病態の解明を行う検査である。検査の目的、放射性医薬品、集積原理、検査方法、画像解剖学、臨床的意義を臓器ごとに学習（小児を含む）し、核医学検査技術学の基本的知識と技術を習得する。	2後	30	2	○			○		○		
○			核医学検査技術学Ⅱ	核医学技術学Ⅰを基に、検査の目的、放射性医薬品、集積原理、検査方法、画像解剖学、臨床的意義を臓器ごとに学習（小児を含む）し、核医学検査技術学の基本的知識と技術を習得する。	3前	30	2	○			○		○		
○			核医学検査機器学	核医学検査に利用される放射性医薬品、核医学検査装置、撮像原理と画像処理および装置性能評価・保守管理の知識を理解し、その技術を身につける。	2後	30	1	○			○			○	
○			核医学検査技術学演習	核医学は、非密封放射性同位元素標識化合物を利用し、診療と研究を行う医学分野である。総論では、臨床核医学に必要な物理的および機器工学的基礎知識、放射性医薬品の集積機序、並びに臨床応用に関する基礎知識を総括的に解説する。各論では、各臓器の解剖・生理・生化学などの基礎知識を前提に、核医学診断法・治療法の概論を、臨床医学分野における意義、位置づけなどを含め、他の画像診断法や治療法とも比較しながら講義する。	3後	20	1		○		○		○		
○			放射線治療技術学Ⅰ	放射線治療ではX線、電子線、陽子線などさまざまな放射線が利用されている。治療を行う場合、それら放射線の特徴を理解し、疾患に照射される放射線の量を正確に評価しなければならない。この科目では放射線が体内で示す特徴とその放射線の吸収線量の計算法や放射線治療の手順などについて講義する。	2後	30	2	○			○		○		
○			放射線治療技術学Ⅱ	放射線治療は、放射線の種類や照射の技術的違いによりさまざまな装置が用いられています。それらの装置の特徴と照射方法を理解し、各疾患に適した装置と照射術式の手順を学習する。	3前	30	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		(前回)		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			放射線治療機器学	現在の医療機関ではリアックをはじめさまざまな放射線治療装置が運用されています。また利用される放射線の種類も装置により異なります。この科目では放射線治療装置を構成する機器の役割と放射線の発生原理などを学習する。	2後	30	1	○			○			○	
○			放射線治療技術学演習	放射線治療全般に渡った知識や吸収線量の計算法などを復習するために演習問題に取り組む。	3後	20	1		○			○		○	
○			画像工学Ⅰ	医療用画像の基本となるアナログのX線画像システムを中心に、ハロゲン化銀感光材料の感光機構、感光材料、現像処理およびそれに伴う写真特性、画像の評価法、環境保全について講義する。	1前	30	1	○				○		○	
○			画像工学Ⅱ	画像工学Ⅰで学んだアナログ画像理論を基礎として、デジタル画像理論について講義を行う。デジタル画像の概念・基本から、画像処理、画像フィルタ、デジタル画像の評価について学習する。これらは診断情報の多い画像生成、被ばく線量低減の点から重要となる。	2前	30	1	○				○		○	
○			画像工学Ⅰ実験	前期に履修した画像工学を受けて、その実際的な理解を目的とする実験を行う。医療現場で使用されている直接X線撮影（増感紙-フィルム系）の実験を通して、画質（感度、被写体コントラスト、鮮鋭度、粒状度）の理解を深める。特に直接X線撮影の実験は、X線発生装置を使用するため、その基本的な原理について十分な知識を必要とする。他の講義で得られた知識をより確実に理解する。	1後	30	1				○	○		○	
○			画像工学Ⅱ実験	画像工学Ⅱで学んだことを、実験を通してより深く理解することを目的とする。主にデジタルX線画像の成り立ち・画像処理効果について詳しく学習する。	2後	30	1				○	○		○	
○			医用画像情報学	現在、医用画像診断装置のほとんどはデジタルデータに基づいており、診療放射線技師が医療現場で発生する様々な情報の電子化に携わる重要性が益々高くなっている。電子化技術だけでなく、他部門との連携のための統合化技術について詳しく学習する。	3前	30	1	○				○		○	
○			画像・医用画像情報学演習	画像工学、医用画像情報学についての基礎的知識のまとめと応用力を養うことを目的に演習を行ない、講義にて学習する。	3後	20	1		○			○		○	
○			放射線関係法規	医療法(医療法施行規則)、診療放射線技師法などの、放射線に関連する法令・規則について、構成と内容およびそれぞれの法令用語を詳しく学習する。	1前	30	1	○				○		○	
○			放射線関係法規	医療法(医療法施行規則)、診療放射線技師法などの、放射線に関連する法令・規則について、1年次に履修した内容をさらに深化させ学習する。	3前	30	1	○				○		○	
○			放射線安全管理学	国際放射線防護委員会(ICRP)等の関連国際機関の基本理念および我が国の放射線防護の法体系、特に放射線障害防止法、医療法施行規則および電離放射線障害防止規則について学ぶ。	2前	15	0.5	○				○		○	
○			放射線安全管理学	放射線による障害防止のために必要な防護、施設等の基準、放射線同位元素を備える施設の管理技術および放射線の安全取扱法を習得する。2年次に履修した内容の復習である。	3前	15	0.5	○				○		○	
○			放射線安全管理学演習	放射線による障害防止のために必要な防護、施設等の基準、放射線同位元素を備える施設の管理技術および放射線の安全取扱法を習得する。	3後	20	1		○			○		○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		(前回)		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医療安全管理学	医療技術者として必要な安全管理に対する概念を理解し、リスク評価、管理、対応、予防策について学ぶ。また、実際の医療事故事例やKYTを通じて、安全管理の重要性や危険因子を理解することで実行能力を身に付ける。	2後	15	0.5	○			○		○	○	
○			医療安全管理学	核医学検査および放射線治療における安全管理に対する概念を理解し、リスク評価、管理、対応、予防策について学ぶ。また、実際の医療事故事例やKYTを通じて、安全管理の重要性や危険因子を理解することで実行能力を身に付ける。	3前	15	0.5	○			○		○	○	
○			臨床実習 (2年次)	2年では病院で行われるX線単純撮影、透視、CT、各種造影検査、MRI、超音波画像検査に関する診療を体験する中で基礎知識・技術を再確認し医療チームの一員としての責任と役割を学んでいきます。学内実習では一般撮影、透視、CT、MRI、超音波、医療安全、画像診断について実践的内容を実技形式にて学ぶ。	2前	225	5			○	○	○	○	○	○
○			臨床実習 (3年次)	3年では病院で行われる核医学検査、放射線治療等に関する診療を体験する中で実践的な幅広い知識、技術を習得する。また、各部門の運営の実際や被検者及び患者に対する適切な対応を学んでいきます。2年次と同様に、学内実習では一般撮影、透視、CT、MRI、超音波、医療安全、画像診断について実践的内容を実技形式にて学ぶ。	3前	225	5			○	○	○	○	○	○
合計					88科目		2745単位時間( 95単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学年末・各学期末に行う試験・実習の成果・履修状況等を総合的に勘案し行う。 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。 毎学年ごと授業日数の3分の1以上欠席したものは進級、卒業せしめないとする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。